

## ケアマネジャーのお仕事サポート

テーマ

### 薬剤の影響を考える

お近くの薬剤師に相談してください!!



服用している薬でどのような副作用が出るかを事前に確認することがとても重要です!!  
多職種でモニタリングしましょう。



### 転倒について

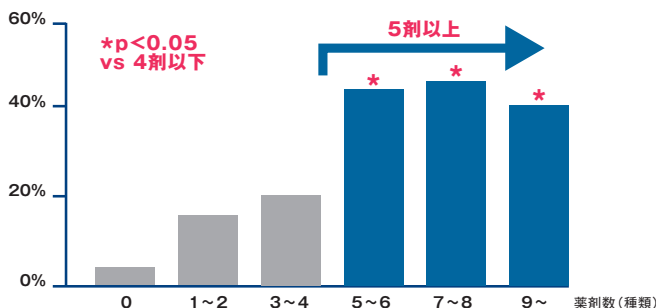
居宅サービス計画(第5表)居宅介護支援経過を見ると「ふらつく」「めまい」「下肢筋力が落ちている」「転倒が多くなってきた」など記載があります。あなたは、**阻害の要因**として何を疑うでしょうか。



#### ① 薬を5剤以上服用している場合「転倒」しやすいというデータがあります。

これは、2024年度から全市区町村が展開する後期高齢者医療制度・高齢者の保健事業と介護予防一体的実施で使用される「後期高齢者の質問票」解説と留意点No.8に根拠データが載っています(図1)。臨床的に重要な転倒の危険因子に服用薬があげられています(表1)。

図1 薬剤数と転倒の発生頻度 (都内診療所通院患者165名の解析)



通院患者の転倒リスクは、薬剤数が5種類以上の者が、4種類以下の者より有意に高かった。5種類以上の薬剤内服は、重大リスクである。

1) 厚生労働省.平成28年 国民生活基礎調査.  
2) Runge M, Rehfeld G, et al. J Musculoskelet Neuronal Interact. 2000 Sep;1(1):61-65.  
3) Kojima T, Akishita M, et al. Geriatr Gerontol Int. 2012 Jul;12(3):425-430.  
4) 日本転倒予防学会監修:認知症者の転倒予防とリスクマネジメント第2版. 日本医事新報.

表1 臨床的に重要な転倒の危険因子

転倒予防を考える上で、視力障害、認知障害、内服薬剤に加えて、運動機能は重要な要因である。危険因子が重なるほど、転倒率は高くなる。

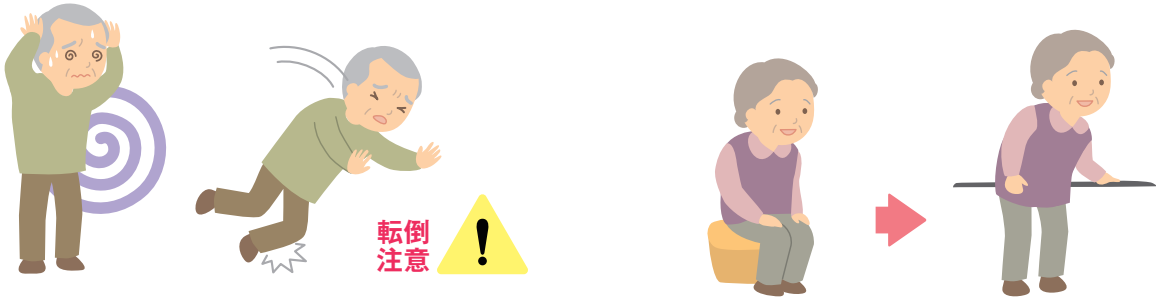
- 下肢の筋力、筋パワーの低下
- バランスの低下
- 歩行能力の低下
- 視力障害
- 認知障害
- 鎮静剤、抗不安薬、睡眠薬内服
- 多剤薬剤内服

## ② 立ち上がったときに「めまい」「ふらつき」が出やすい薬があります。

例えば：**α1遮断薬（前立肥大症治療薬）**は、**起立性低血圧に注意**する必要があります。  
何かにつかまってゆっくり立ち上がることで「めまい」「転倒」を防ぐことができるでしょう。高血圧治療薬（降圧剤）と併用している場合、起立性低血圧が起こる可能性があるため注意が必要です。

起立性低血圧の症状

何かにつかまってゆっくり立ち上がる



## ③ 薬の副作用から「食事」に影響が出る。

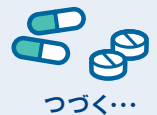
**カルシウム拮抗薬**による**「歯肉肥厚(歯肉が腫れてくる)」、**そして入れ歯が合わなくなる。これが原因で食事摂取量が減少する。たんぱく質が不足して筋肉が減少する。そして転倒しやすくなる。カルシウム拮抗薬は、日本では降圧薬の第一選択薬です。本剤を投薬されている患者(利用者)も多い。したがって本剤を服用して入れ歯を使用している利用者の口腔の管理を徹底する必要があります。そのほかにプラークコントロールにも影響が出てきます。この歯肉肥厚は歯肉をよく「ブラッシング」し口腔を清潔に保つことである程度予防可能になります。**「口腔ケア」**とセットで考えましょう。

歯肉肥厚で入れ歯が合わなくなる

口腔ケア



しっかりモニタリングをして薬剤が生活に影響があるようであれば  
薬剤師を通じて処方している医師に相談をしましょう。



執筆者

**木村隆次** きむらりゅうじ

薬剤師

介護支援専門員

介護支援専門員指導者一期生

医療・介護連携協働をライフワークに活動中。大学卒業後、製薬会社のMRとして勤務した後、青森市内で薬局を開局。薬剤師として居宅訪問をしていた際、福祉用具と住宅改修に興味をもち没頭。介護支援専門員指導者の一期生。2000年4月から13年間日本薬剤師会常務理事、2010年から2022年まで青森県薬剤師会会長を務めた。2005年11月から日本介護支援専門員協会会長（初代）として厚生労働大臣の諮問機関で介護報酬や介護保険制度を議論する分科会・部会の委員を歴任。現在は、青森県介護支援専門員協会会長として自立支援型ケアマネジメントの普及のため後進へ情報発信し育成に努めている。